

平成 28 年度市自委第 10 号協働パイロット事業

『「子ども食堂」実態調査』業務

静岡市子ども食堂ネットワーク

1 委託事業の名称

平成 28 年度市自委第 10 号協働パイロット事業
『「子ども食堂」実態調査』業務

2 事業の目的・趣旨

「子ども食堂」を運営する際に判明した課題・問題点等を静岡市へ報告書として提出することにより、本市内及び全国の「子ども食堂」の運営の現状を把握する。

3 事業期間 平成 28 年 9 月 14 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

4 実施箇所 静岡市内

5 事業内容の報告

(1) 市内の「子ども食堂」の情報交換会の実施

市内の「子ども食堂」の実施者及び団体間で、「子ども食堂」の運営等に関する意見交換会を実施しました。

【1 回目】時期：平成 28 年 9 月 20 日（火）

①対象者 市内の「子ども食堂」の実施者及び団体

（竜南ひまわり子ども食堂、ゆずのひ、しずおかキッズカフェ、くさなぎこども食堂、GINZA 澄海（スカイ）、そらいろ食堂など）

② 参加者

静岡市子ども未来局 子ども未来課
静岡市子ども食堂ネットワーク
一般社団法人てのひら「そらいろ食堂」
くさなぎこども食堂
竜南ひまわり子ども食堂
丸子せんマル子ども食堂

③ 内容

- ・当事業の内容説明、調査への御協力依頼
- ・静岡市内の子ども食堂の主催者顔合わせ、自己紹介
- ・各子ども食堂の実態について情報交換

④ まとめ

「子ども食堂」間での情報交換は、互いに学ぶところが多く、運営上の問題点や課題について議論し合う有意義な時間となりました。静岡市子ども未来課が同席したことで、行政に現場の状況や思いを伝えられる良い機会でした。

【2回目】時期：平成29年3月21日（火）

①対象者 市内の「子ども食堂」の実施者及び団体

（竜南ひまわり子ども食堂、ゆずのひ、しずおかキッズカフェ、くさなぎこども食堂、GINZA 澄海（スカイ）、そらいろ食堂など）

② 参加者

竜南ひまわり子ども食堂

麻機ベーテル子ども食堂

③ 内容

実態調査報告書についての結果報告と質疑応答

④ まとめ

調査報告に合わせ、麻機、竜南の子ども食堂の主催者から、現場での色んなエピソードや、思いを聞き「子ども食堂」について知る良い機会となりました。

(2) 「子ども食堂」実態調査の実施

市内の「子ども食堂」及び「こども食堂ネットワーク」に参加している「子ども食堂」計165団体に対してアンケートによる実態調査を行いました。また、市内の「子ども食堂」のうち、当団体が運営するところでは、利用者アンケートも併せて実施しました。

①対象者 (I) 市内の「子ども食堂」のうち、当団体が主催、支援している「子ども食堂」

(II) 市内の「子ども食堂」のうち、当団体が主催、支援していない「子ども食堂」及び「こども食堂ネットワーク※」に参加している「子ども食堂」

※地域で「子ども食堂」を運営している人たちが交流し、「子ども食堂」の輪を広げるための連絡会。全国で運営されている「子ども食堂」が登録されている。

②調査期間：平成28年10月から12月

③調査方法

- ・全国で開催されている「子ども食堂」の確認
- ・連絡先が公開されている「子ども食堂」へ、調査依頼
- ・実態調査票の回収、分析

(3) 調査の取りまとめ及び報告

実態調査の結果から、市内外の「子ども食堂」の実施状況、利用者の状況、施設の状況及び運営における課題点等を分析し、報告書を作成しました。

詳細は、別添“「子ども食堂」実態調査報告書”をご参照ください。

実施時期：平成 28 年 12 月から平成 29 年 2 月

6 実施の結果

(1) 協働の効果

- ①実態調査の実施で得た実用的な知識が、経験や実績となりました。
- ②事業実施の際に繋がりを持った「子ども食堂」との交流、関係性が構築できました。

(2) 今後への提言

本事業の実施により「子ども食堂」の現状及び課題を改めて確認することができました。今回の調査結果を活用して今後の「子ども食堂」のあり方や、課題の解決方法の検討につなげていく必要を感じました。

行政と連携して事業を実施することは初めてだったため、協働事業担当課とのコミュニケーションがうまくとれなかったように思います。今後、行政との連携、協働に対する考え方や、アプローチの方法について、よく知ることが大切だと感じています。お互いの役割分担や求めている結果について定期的に確認し合う必要があると感じました。

7 感想

本事業に取り組むに当たり様々な課題に直面しました。特に回収した調査結果を分析し、報告書にまとめる点について、回答を簡潔に表やグラフにまとめ、行政への提出資料として適した文章の構成や体裁を整えるのが大変でした。これを解決するために、子ども未来課、市民自治推進課の指導を仰ぎ、修正を繰り返しました。

子ども食堂は、全国的に展開されており、今まさにひとつの「ブーム」を築いているところですが、そのあり方や理念、抱えている課題はそれぞれ異なっています。「パイロット＝試行的な」事業ということで、それぞれの子ども食堂を詳細に網羅・分析するまでには至りませんでした。この実態調査が、子ども食堂の現状や課題を把握するための一助になれば幸いです。

今回の事業実施は、私たちにとって、とても貴重な経験でした。協働の有意義さを感じるとともに、その難しさ、苦労も併せて実感することができました。

NPOができること、望んでいる協働のあり方が、必ずしも市の考えと合致するわけではないということを心に留め、今後、お互いのできることを、考えていることを理解・尊重して関わっていきたいと考えています。

(4) 協働相手（子ども未来課職員）の意見・感想

・全国の子ども食堂に調査依頼をかけていただきました。サンプル数が多ければそれだけ取組、課題、効果等について把握できると期待していましたが、協力いただいた子ども食堂数が少なかったことは残念でした。

・上記のように、今回の調査に協力いただけなかった「子ども食堂」や類似事業など、把握できなかった実態がまだまだあると思います。そうしたことから、民間組織、個人、行政等、関わり方も様々なものがあり、今後の検討が必要と思われます。

8 協働・協力機関

静岡県子ども未来局 子ども未来課

9 担当スタッフ

(1) 飯沼 直樹 (代表)

(2) 八木 忍